

公務員試験体験談

法学部法律学科 村木達也

1. はじめに

私は令和6年度に北海道職員(北海道行政)採用試験、小樽市役所職員採用試験、並びに国家一般職採用試験を受けました。先に結果について書くと、道庁については二次試験で不合格、小樽市役所については二次試験辞退(理由は後述)、国家一般職試験については席次117位で合格といったような結果に終わりました。ここからは試験前の取り組みや民間との併願、試験での苦労など内容ごとに記述していくので、公務員を進路に考えている方は是非参考にしてください。

2. 試験前(大学2~3年生)の過ごし方について

I 大学2年生での活動

2年生はまだ自分の進路について定まっていない人も多いかと思います。私も2年生時点では公務員は視野に入りつつも本腰を入れてはおらず勉強というよりは、面接などで使うガクチカや自己分析、浅めの業界研究などに力を入れていました。ガクチカについて、学生はみなアルバイトや部活動の経験をもとに話す人が大半であり、それらにおいて自分の経歴ではあまり興味を引くことはできないと考え、早い段階で探し始めました。そこで見つけたのが「ezorock」というNPO法人でした。ここでの活動は公務員試験の面接ととても相性がいいのでお勧めです。私が参加した活動は2泊3日のお試し地域おこし協力隊活動です。具体的には石狩市の浜益区で地域の実情の調査や、現地の人々の仕事を見学、体験させていただいた後に交流会を催しました。また区役所の方地域の課題やそれに対する解決策を話し合う機会もありました。地元の人と区役所の方との間のような立場に立ち公益性の高い活動を経験できたのは、公務員の仕事と通ずるものがあり面接での印象も非常に良かったです。

勉強については大学の講義にある「公務員特別対策演習」が役に立ちました。数的処理の基本的な解法や社会言語の基本などをおさらいするのに特にお勧めです。他にも本学と提携しているLECで2年生向けに公務員講座をやっているのも興味がある人は是非受講してみてください。

業界研究や自己分析については3年生になり本格的に始めるので2年生のうちに焦る必要はないですが2年生はまだ時間的猶予がある時期なので積極的に取り組んでいきましょう。

II 大学3年生での活動（勉強、その他活動）

i 勉強について

私は3年生から本格的に勉強を始めました。教材は主にLECの公務員講座で配られたテキストを使用していました。3年生前期は、数的処理や言語能力などの教養分野の基礎固めに特に力を入れました。これら2つはどちらもどの公務員試験においても大きなウエイトを占めているので最優先で取り組むことをお勧めします。LECテキストはセクションごとに基礎編、応用編があるので一通りまずは基礎編をやりましょう。前期までに2～3周できれば十分だと思います。教養分野の応用編に関しては解かなくても本試験ではそれなりに得点できるので、背伸びしすぎず取り敢えずは問題の傾向と解法を覚えていきましょう。

国家一般職や総合職、特別職などを考えている人は教養科目に加えて専門科目の勉強も必要になります。16科目の中から8科目を選ぶ専門基本的に受験生の大半は選ぶ科目が似てくるので何を選ぶか迷うのは3～4科目ほどになると思います。ミクロマクロ経済学という分野は、最初は理解しにくい科目だとは思いますが、LECの先生曰く、高得点を取る人はこの科目をとっている人が多いと言っていました。私の周りも本試験で8割をとった友人もミクロマクロを選択していました。経済学や政治学、行政学をはじめとした学系科目は年度によって難易度が大きく変わると、対策が難しいのであまりお勧めはしません。勉強方法について、例年学系科目以外は出る分野が決まっているので、出題頻度の多い分野を重点的に取り組み、とにかく数をこなすことを意識しましょう。教養分野と違い、論理的な思考を試される分野はほとんどないのでパターンと引掛けポイントを把握しスムーズに解けるようになれば問題ないと思います。

勉強時間としては、LECの講義がある日はそれ以外で1時間、ない日は2時間程度やっていました。私は大学まで電車も含め片道1時間半ほどあったので勉強というほどではないですが短答式の問題を電車の中で解いていました。

ii その他活動

3年正の夏には公務員以外の業種をよく知るために企業説明会に参加しました。ホテルで100社以上を集めて行う合同企業説明会に参加、大まかな業種ごとの特徴を把握し、そこから各社の個別業務説明会に行きました。夏には大規模な合同企業説明会がいくつもあるのでぜひ余すことなく行ってみてください。民間とは別に国家公務員専用の説明会もあります。民間と違うのは説明会の時点で名前やメールアドレスを記入し、人事の方に顔をおぼられる点です。民間の説明会よりもさらに真剣に聞く姿勢が求められている点に注意しましょう。

私は業界研究、企業説明会を経て夏季休暇中に7社ほどインターンに行きました。北海道庁や北海道銀行、不動産会社や人材派遣会社など官民合わせて多くの業界に行き、自分が何になりたいのか何に向いているのかをしっかりと学ぶことができました。インターンに行くのと早期選考の案内などが送られてくるので興味がある会社には絶対に行くようにしまし

よう。

3. 4年生(試験直前期から試験後)の活動

4年生になり模試などの結果が現実味を帯びてきた中で注意したのは、試験の結果に一喜一憂しないということです。自分の得意な分野が出題されたときはもちろん高得点が取れ、苦手な場合はその逆です。勘で書いた選択肢で上乘せられるのも少なからずあるので高得点=自分は大丈夫と油断しないようにしてください。実際に試験で高得点をとれた友人は本試験では点数を落とし、点数が低くても諦めずに努力した友人は本試験で前者よりもいい得点をとっていました。

直前期の勉強時間は平日で3~4時間、休日で5~6時間でした。とにかく数をこなして一次試験前までには各テキストは最低でも3周していました。苦手は切り捨て得意を伸ばす勉強で結果的には良かったと思います。苦手だから何が何でもできるようにしなければならないと気負いすぎず、捨てる判断も大切です。

一次試験後は直ぐに官庁訪問の予約が始まります。点数が思うように取れていなくて落ち込んだり、一次試験合格してないと思った人でも申し込みは早いうちにおきましょう。二次試験の対策は一次試験後でも十分間に合います。自治体によっては他の自治体や公務員と二次試験や官庁訪問に向けての説明会がかぶっていることがあります。はじめに書いた小樽市役所の二次試験辞退はこれが原因です。

4. おわりに

道庁の二次試験では小樽市辞退の理由について詰められ、国家一般職との併願がばれると不利になると思い隠しましたが、結局ぎこちない回答になってしまい落ちてしまいました。国家一般職では最終的には上位20%ほどの席次で合格しました。試験では専門、教養どちらも7割でした。官庁によっては一次試験の点数を見て採用を判断しているところもあると思うので油断せずに取り組んでください。試験で苦労したことはモチベーションの維持です。国家一般職、道庁、その他自治体の試験レベルなら、なまけずに少しずつでも勉強すれば頭の良しあしは問題ではないです。LECの講義は初学者にもわかりやすい講義に加え、いつでも受講できるオンデマンドもあるので予習復習も滞りなく取り組むことができます。そしてLECをもし購入するなら、対面講義には休まずに出てほしいです。実際、対面講義に出た人はほぼ全員が合格し、オンデマンドでできると言って対面講義に出席しなかった人たちはほぼほぼ不合格でした。自分を過信しすぎず、しっかりカリキュラムに沿って学習していくのがいいです。

今回の私の体験記が参考になったかどうかはわかりませんが皆さんの就職活動がより良いものになることをお祈りいたします。